

第2回登米圏域宿泊事業者部会

【日時】令和7年9月4日（木）午後2時から午後4時まで

【場所】登米合同庁舎203会議室

【委員からの主な意見】

1. 宿泊税活用施策案について

（1）施策1 戦略的な観光地域づくり

- 登米市の宿泊施設ではビジネス客がほとんど。そうすると自由な時間は夜か早朝なので、その時間帯に楽しめるコンテンツをつくってもらいたい。地元の人との会話が楽しいというお客さんが多いのでそういった要素もコンテンツに含められると良い。また、そういったコンテンツパンフレットがあるとホテルでも案内がしやすい。
- ホテルでも近所のイベント以外は情報を知らない場合もあるので、周知してもらえると良い。
- 1年目の優先順位としては、二次交通もすぐやりたいがハードルや時間がかかることを思うと、施策1だと思う。「このお客さんにはこの体験・宿泊先が合いそうだ」と振り分けていく体制が登米圏域は弱い。他の地域も同様ではないかと思う。戦略を考えたり実際のお客さんのニーズを受け止めたり、情報発信をしていく、観光に特化した組織の体制支援を一番初めにお願いしたい。2年目3年目、お客様が来るようになると、ニーズ把握ができてくるので、次のステップでは施策2、施策3のところをあわせていけると良いのかなと思う。
- Googleを活用するという施策案があったが、じゃあGoogleは活用するけれども誰が主体的になってその情報を更新するか、問合せに対して誰が対応するか等が大事なのかなと思う。なので、体制のところをまずは手厚く支援していただきたい。
- 地域でイベント等を頑張っている青年団や地域おこし協力隊出身の方がいる。そういった新しい活動をしている人の支援をするのも良いかなと思う。栗原市では、ナイトコンテンツである夜市をやっていてとても魅力があるが、これも元地域おこし協力隊の方達の取組。こういったところをヒントにやっていけると良い。
- 地域のイベントを直前に知ったりすることはよくある。小さなイベントでもいいので、イベントやお祭りを全部載せられる、ローカルな掲示板のようなコンテンツがあれば、お客様にも案内できていいかなと思う。

（2）施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- 二次交通の整備は優先順位が高い。
- 自家用車以外のアクセスが悪いのは登米市の現実ですが、タクシー会社が少ない等は業者の問題。増やすことは難しいけども、会社が潰れない程度にバス会社やタクシー会社に補助を出すとか。業者の集約をして、タクシー会社が他地域のタクシーも運転できるような仕組みをつくとか。

（3）施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

特になし

(4) 施策4 効果的なプロモーションの展開

- 「選ばれる場所」になるように、唯一無二のものを打ち出してPRしていく必要がある。宮城は台風等で天気が崩れにくく、食べ物もおいしい。PRがうまくいっていないところは、身内に対してしか打てないPRが多かったりするので、行動を起こさせる対外向きのPRをしていき、まず知ってもらう、来てもらうことが第一。
- 宮城県は魅力がたくさんあるからか、アピールが弱く感じる。「登米市は食材」「大崎は温泉」など、もっと打ち出すものを絞って、強くPRしていくべき。
- データを見ると県内客にはたくさん来てもらっている。インバウンドも良いが、国内（県外）の人に宮城の魅力が伝わっていないので、国内向けPRをもっとやっていくべきではないか。また、女性にとって魅力ある宮城県をつくっていくべき。女性が足を運べば、男性も付いてくる。
- やはり認知度が低いのでPRに力を入れるべき。ターゲット絞るのも一つだが、年齢層によってPR方法も異なってくる。SNSも何がバズるかかわからない時代なので、1個当たればこれまで関心なかった人にも知ってもらえる。どんどんPRしていってほしい。

2. 圏域での施策活用イメージ

(1) 施策1 戦略的な観光地域づくり

- 登米は交通手段も限られているので、お客さんにとっては、交通手段・時間配分がなかなか難しい。順番に巡れるコンテンツルートを作っていただけると、お客様も時間を楽しく有意義に使えらると思う。食べ物やお土産も大事なので、必ず「食」も盛り込んでもらいたい。
- 登米市には県内で比べても歴史ある神社がいくつかある。行政として扱いにくいところもあるかもしれないが、コンテンツとしてパワースポット巡りみたいなものがあっても面白い、良いと思う。基本的に日本の名所になっているのは、出雲など宗教的なところも多いし、お祭りのものになっているのも神事だったりする。
- 現状登米圏域は、食や人との交流など学びの要素が強い。ゴールデンルートとは違う良さとして、ゆっくり楽しんでもらうのも県北エリアには相性がいいのではないかな。それとは別に、限られた休みの中でいろいろ周りたいという方には、県北エリアの温泉・山・川・海などを組み合わせていくのが大事なのかなと思う。
- 宿泊に繋がるナイトタイムコンテンツとしては、伊豆沼ではマガンの飛び立ち（早朝）やねぐら入り（夕方）。あとは朝に行くと満開の蓮が見られますよというところが着手しやすい部分。
- 民泊はまだまだ開拓の余地がある。海外ツアーでも民泊したいという要望は多い。農業体験や夕食までを民泊で過ごして、泊まりはホテルが良いという場合もある。グリーンツーリズム会員も、日帰りならできる、農家ではないけど泊まってもいい等、そういった人達がいれば開拓していくべき。圏域の観光が活性化する一つの足掛かりになるのではないかなと思う。
- 秋は「料亭や東海亭で食事後、登米秋まつり、登米薪能」、冬は「竹あかりづくり、夕食、星空観察、翌朝マガンの飛び立ち観察」とかの組み合わせも良いのではと思う。
- 若い方だと、2か月に1回くらいの頻度で結構な人数が、登米町の明治村にコスプレ撮影に来ている。その方達は撮影が終わったらすぐ帰っていくが、その方達がネット上に掲載する写真によ

って、他の人にも「素敵な場所だな」と知ってもらえるきっかけになると嬉しい。

- 色々なコンテンツがあるので、とりあえずやってみるのが大事。ナイトコンテンツを含めた宿泊付きのプレツアーの実施など。また、四季ごとのツアーを試しに組んでみて、これは常時やれそうだなというものがあれば、2か月単位とかでツアー実施できる体制にして集客を目指すとかも良いのではないかな。

(2) 施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- スモールスタートでいいので、シャトルバスを運行してみるとか、レンタサイクルを何十台買うとなると負担大きいと思うが、数台レンタルとかをしておいてみるとか、そういうモニターツアーをしてみるとか、試してみることが大事だと思う。
- 蛍や伊豆沼・内沼のマガンの飛び立ち等、期間限定の観光コンテンツにあわせて、登米市内ホテル等が合同で企画・運営するツアーを組んで、みんなでバス1台チャーターするみたいなものができたら良いなと以前から考えている。
- ライドシェアの推進を地方でも進めてほしい。また、グリーンスローモビリティ（低速で走れる電気自動車）の試験導入を登米市でもされると良いのかなと思う。桜鑑賞をゆっくり走りながら鑑賞したり、登米町の街並みを楽しめるのではと思う。